

令和2年度 学校評価報告書

4段階評価【4：期待以上 3：ほぼ期待通り 2：やや期待を下回る 1：改善を要する】

都城市立高城中学校

具体的な取組	項目	自己評価		自己評価に対する学校の分析・考察	学校関係者評価	学校運営協議会委員からのコメント
		項目別	取組別			
学力の向上	① 生徒は、学習の問い(めあて)の確認とふり返りを確実にを行い、学習内容を理解する力が高まっている。	3.0		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師・生徒・保護者ともにほぼ期待通りとする評価であった。ただ、保護者の27%に期待を下回るとする回答があり、学習内容の理解を不安視している面が見られる。</li> <li>○ 毎時間、学習の問いとふり返りを行うことで習慣化できたが、慣れが出てきたり、取り組まない生徒が出てきた。ふり返りの取組ませ方に工夫・改善が必要である。</li> </ul>	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業参観では、先生によって学習内容の理解度を表示するカードを使用する等丁寧な授業の進め方をされていた。進路のはっきりしている生徒は積極的に希望(夢)に向かって工夫した取組みや学習態度がうかがえた。しかし、理解しようとする姿勢が見えない生徒もいた。</li> <li>・ 生徒が「下回る」と評価しているのは、何かしらのSOSであろう。</li> <li>・ 先生たちは評価の高い生徒には期待を、評価の低い生徒には希望をもっておられる。一方保護者は生徒に厳しい評価をしている。教師・生徒・保護者の間にギャップが見られるので、そのギャップを埋めるために成績以外の絶対的な評価についても保護者に伝えることが大事である</li> <li>・ 学力の個人差は小学1年生からの問題だと思う。第四者として地域の有志にボランティアで放課後学習など応援を頼むべきだと思う。</li> <li>・ 項目③については「能力」についての考え方を整理する必要がある。</li> <li>・ 図書室が工夫されていて積極的に読書を推進しているように見受けられた。また、読んだ本を生徒が紹介するコメントはすばらしい仕掛けだと思う。</li> <li>・ コロナ禍の中で自発的な読書や自己学習の時間が十分あった。その時間を有効に使える生徒の育成が必要である。</li> </ul>
	② 生徒は、学習課題に対して時間をかけて思考し、深い学びを追求している。	2.8	2.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師・生徒・保護者ともにほぼ期待通りとする評価であった。ただ、生徒の3割はおおむねできていると回答したのに対して教師・保護者の3割はあまりあてはまらないと回答していた。</li> <li>○ 学習課題に対して深い学びを行なった生徒とできなかった生徒が分かれ、学習への取組は個人差がある。</li> <li>○ 学力の低い生徒への支援・指導を行うと十分な時間を全体にかけられず個別に指導していく必要がある。</li> <li>○ 中間層の生徒に焦点を当てた手立てや下位層の生徒にも関心をもたせる工夫を行いながら授業改善に努めなければならない。</li> </ul>		
	③ 生徒は、読書活動の推進により、読むこと・話すこと的能力が高まっている。	2.7		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の自己評価にばらつきがみられ、教師・保護者の回答も期待通りとするものと下回るとするものに分かれた。</li> <li>○ 読書をする生徒が多く見られ、本を読みながら読めない漢字を調べたり、読み方を聞いたりしてくる生徒もいた。しかし、問題文を読む力や話を聞く力は不足している。</li> <li>○ 新聞のコラムを視写したり、朝の会・帰りの会でスピーチをさせたりして、話すスキルが向上しつつある。今後文を書かせたり、話をさせたりする機会を増やしていかなければならない。</li> </ul>		

具体的な取組	項目	自己評価		自己評価に対する学校の分析・考察	学校関係者評価	学校運営協議会委員からのコメント
		項目別	取組別			
心豊かな生徒の育成	④ 生徒は、自分のことを大切に思うとともに、相手を思いやる心が身に付けている。	3.1	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師・生徒・保護者ともにほぼ期待通りとする評価で、生徒と保護者は教師より高めの回答が多かった。</li> <li>○ 周囲との協調や団結力があり、一つのことに向かって努力する生徒が多く見られるなど周りのことを思いやる気持ちを持った生徒が多い。ほとんどの生徒は身に付けているが、個人差が大きい。</li> <li>○ 傍観者の立場で考えている生徒が多く、トラブルの解決は、生徒同士ではなかなか難しい。</li> <li>○ ピア・サポート活動を取り入れた指導を適宜行い、積極的に「見える化」していく必要がある。</li> </ul>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナ禍の中で命の大切さと感染しない、させないという自分を大切に、相手を思いやる心が培われたと思う。</li> <li>・ 周囲との協調性がすばらしい。</li> <li>・ 団結力や目標に向かう努力を学習面でも頑張り、「学力の向上」における個人差を縮めてほしい。</li> <li>・ 制服を着ているときは明るいあいさつができていますが、マスク使用により大声で元気よくあいさつをするという姿が少なくなってきた。また、部活動時のあいさつはよくない。校内と校外、部活動中と通常時などTPOに応じてあいさつしているように見受けられる。</li> <li>・ 昨今の生徒は、教師や保護者とフレンドリーな感覚で接し、先輩に対しても友達的な言葉遣いになっている。はじめは大事だと思うのでTPOをわかまえられるようになって欲しい。気づいた人が誰でもアドバイスできる地域にしたい。</li> <li>・ 生徒は、教師・保護者とのギャップを常日頃感じていると思われる。生徒との絆をつなぐにはカウンセリング機能の拡充が必要であり、家庭を基盤とし学校が補強するという考えから地域の民生委員・児童委員との情報交換・協力体制を強化する必要がある。</li> <li>・ 生徒たちがこのコロナ禍を通して何を学び、何を教訓化できたかが、これから先のそれぞれの人生に大きくかかわってくる。そのために先生や生徒が共に自らを検証していくことが大切になってくる。</li> </ul>
	⑤ 生徒は、あいさつがしっかりとでき、規則正しい生活習慣が身に付いている。	3.1		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師・生徒・保護者ともにほぼ期待通りとする評価で、生徒と保護者は教師より高めの回答が多かった。</li> <li>○ 明るく元気のあるあいさつを基本にし、TPOに応じたあいさつや行動ができるように常時指導を行わなければならない。</li> </ul>		
	⑥ 生徒は、道徳の授業や全教育活動によって適切な言葉遣いが身に付いている。	3.0		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師・生徒・保護者ともにほぼ期待通りとする評価で、生徒と保護者は教師より高めだった。教師の38%はあまりあてはまらないと回答しており、学校内の生活では好ましくない面があることがうかがえた。</li> <li>○ 授業中だけでなく日常生活の中でも、生徒同士の会話に耳を傾け、正しい言葉遣いについて常時指導を行わなければならない。</li> </ul>		
保健安全指導の推進	⑦ 生徒は、安全教育や防災教育に意欲的に取り組んでいる。	3.0	3.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師・保護者ともにほぼ期待通りとする評価で、生徒の52%はおおむねあてはまると回答していた。</li> <li>○ 日常的な事故や増加傾向にある自然災害について科学的な知見に基づく指導を行い、生徒の実践力を向上させなければならない。</li> </ul>	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒・教師・保護者は、感染症防止等の意識や取組みがより向上できたと思う。部活動の大会などが中止、または短縮され、子どもたちの心に寄り添うケアが今後必要になってくると思う。</li> <li>・ 今年はコロナ禍で防災教育などは実施できていないが、少人数でも実施し、その経験を報告する場(発表の場)を設ける必要がある。また、映像教材を視聴し恐怖感を体験してほしい。</li> <li>・ マスクの着用、手指消毒などの感染防止は社会全体で定着してきている。生徒も社会の一員としてうつらない、うつさないという思いやりの心をこのコロナ禍で学んでほしい。</li> <li>・ 生徒自体がやらされている感覚で持久走などに参加しても体力向上になるのか疑問である。部活動を通じ基礎体幹を鍛えてほしい。</li> </ul>
	⑧ 生徒は、感染症対策を通して、健康と安全に対する意識が向上している。	3.3		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師・保護者ともにほぼ期待通りとする評価で、生徒の66%はおおむねあてはまると回答していた。</li> <li>○ 生徒はコロナ禍でマスク着用や手洗い等を積極的に行うようになり、健康と安全に対する意識は向上してきた。</li> <li>○ 全生徒が高い感染防止の意識を持ち、学校のみならず家庭や地域においても対策を徹底して行うように指導を継続しなければならない。</li> </ul>		
	⑨ 生徒は、個々の能力に応じて、健康でたくましい身体づくりに努めている。	3.2		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師・保護者ともにほぼ期待通りとする評価で、生徒の53%はおおむねあてはまると回答していた。</li> <li>○ 体育の持久走などを通して体力向上の意識が見られた。</li> <li>○ 生徒同士で部活動のよさをアピールする場を設け、部活動への加入を増やし、その充実を図る必要がある。</li> </ul>		

具体的な 取組	項目	自己評価		自己評価に対する学校の分析・考察	学校関係者 評価	学校運営協議会委員からのコメント
		項目別	取組別			
家庭、 地域との 連携	⑩ 学校運営協議会を通じて地域人材を活用し、地域と学校の協力体制を構築できている。	2.9	2.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師・保護者ともに期待通りと評価しているが、あまりあてはまらないという回答も2割あった。</li> <li>○ 家庭や地域の方々が来校してくださり、地域の手や支えがあることで生徒が充実した学校生活を送れている。</li> <li>○ 学校運営協議会や地域の諸活動で地域の人材・資源がどのように生かされているのかを広報していく活動を積極的に行わなければならない。</li> </ul>	2.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の諸活動や行事のほとんどが中止され、地域の人材や資源が活用できる機会がなく、残念だった。しかし、学校内における美化清掃活動には積極的に取り組む姿はすばらしいと思うので、今後も継続してほしい。</li> <li>・ あいさつ運動は、輪番制(全員参加)で各地区の要所に立ち、あいさつだけでなく安全面の認識もできると思う。</li> <li>・ 地域への関心は保護者に対しても発信をすることが大切である。学校だけでなく、行政や地域が連携することが必要である。</li> <li>・ 一昨年の公民館長と生徒との交流会は貴重なものであり、今後の地域と学校との関係に光明を与えるものである。地域コミュニティにおける中学生の役割を考え、将来どう活かされるのかを公民館等と精細に組み立てていけることを望む。そのためにも生徒たちに地域でどのような仕事をして欲しいか、どんな行事なら参加しようと思うかなどを、公民館を通じてアンケートをとるのも一方法である。</li> <li>・ 退職校長会でも各地域の退職校長に学校との連携を呼びかけ、リーダーバンクを立ち上げた。市内の全小中学校に配布したが、学校からの問い合わせはほとんどない状況だと聞いた。特に今年は、コロナウィルス問題で多くの行事が中止になった。学校行事との関係や部活動などで多忙なことが分かっているので働きかけも小学校に限定しているのが実情である。</li> <li>・ 学校運営協議会と生徒会役員等と意見交換する機会があるとよい。</li> <li>・ コロナ禍の中で多くのものを失ったかもしれないが、多くのものも学び体験した。生徒には先生や保護者に感謝の心を忘れることなく、これからの人生に向かってたくましく夢を持ち続け前に進んで行ってほしい。</li> </ul>
	⑪ 参加協力型の地域ボランティアを推進し、生徒はふるさと高城への貢献ができている。	2.3		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の66%はあてはまると回答しているが、教師の88%、保護者の48%は期待を下回る評価であった。</li> <li>○ 生徒は校内でのあいさつ運動や落ち葉掃きなどボランティア活動に積極的に取り組んだ。</li> <li>○ コロナの影響で地域の行事等が縮減し、地域とのつながりや活動は見えにくかった。</li> <li>○ 感染防止対策をとりながらできることを、生徒会の活動として広げていけるように努めなければならない。</li> </ul>		
	⑫ 生徒の地域行事に対する関心が高められている。	2.4		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の62%はあてはまると回答しているが、教師の76%、保護者の47%は期待を下回る評価であった。</li> <li>○ コロナ感染症拡大のため行事に参加する機会がなかった。</li> <li>○ 生徒は地域行事に関心をもっており、生徒や保護者に地域の諸活動計画を知らせたり、意見を集約して地域のリーダーに届けるなどして互いの交流を図っていかなければならない。</li> </ul>		